令和３年度

事 業 報 告

社会福祉法人　ぬくもり福祉会

Ⅰ．法人本部

《総括》

社会福祉法第24条「経営の原則」の第１項には、「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図り提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明性確保を図らなければならない」と規定されている。

また、時流と共に社会福祉法人の位置付けが大きく変化し、社会福祉法の改正により、同第２項に追加として、福祉ニーズへのきめ細かい対応と既存制度で対応できない人々を支援する位置付けとして公益性と非営利性を備えて貢献する体制を求められている。

この枠組みは、新型コロナウィルス感染症感染症拡大で変容した現在でも変わっていない。社会福祉法人には、地域に貢献するという使命があり、採算がとれない事業にも取り組んでいかなければならない。

社会福祉法人は、毎会計年度、保有する財産について、事業継続に必要な財産を控除した上、社会福祉充実残額を算定する必要がある。当法人は、算定の結果、社会福祉充実残額が生じているため、地域の福祉ニーズ等を踏まえつつ、社会福祉充実計画を策定し、再投下という形で地域に還元している。

今後も、利用者・地域に選ばれる社会福祉法人として、時代に即応した福祉サービスを実施すべく、中長期計画に基づき、新規事業の展開や経営改革に取り組んでいきたい。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）人権の尊重

年間計画	取り組み	評価
福祉の理念と根本的に相容れない虐待、身体的拘束等を決して容認せず、根絶する姿勢を示します。	虐待が疑われる行為はすべて事業所から安城市へ通報しており、適切に対応した。	〇

（２）サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
さらなる重度・高齢化に対応していくため、安城市の障害福祉計画に沿って、重度高齢化に備えた共生型（障害福祉サービスと介護保険事業）の日中サービス支援型グループホームの整備計画をぬくもりの郷西に購入した土地で検討し、策定するプロジェクトチームを立ち上げます。	愛知県との協議の結果、購入した土地にはグループホーム整備の認可ができないとの見解があり、グループホーム整備を断念した。現在のぬくもりの郷グループホームを日中サービス支援型グループホームへの移行を検討することになった。	△
４年後の「安城市虹の家」の指定管理者終了に備え、就労継続Ｂ型事業所等日中支援事業所をぬくもりワークスの南の畑で行うよう安城市と協議しつつ今後の方向性を研究・検討するプロジェクトチームを立ち上げます。	整備する場所をぬくもりワークス畑からぬくもりの郷西に購入した土地に変更し、就労継続支援Ｂ型事業所、放課後等デイサービス、相談支援事業所が入る施設整備にとりかかるが、進捗が順調とはいえない。	△

（３）地域における公益的な取り組みの推進

年間計画	取り組み	評価
災害時の取り組みとして、特定福祉避難所の取り組みへの備え等、地域住民の安全・安心な生活の確保に取り組みます。	安城市と福祉避難所としての協定を結び、事業継続計画の策定も継続していった。	○
ＳＤＧｓ「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」は国際社会共通の目標です。法人の持つ施設と人材を最大限に活用し、福祉サービスの提供と住民や関係機関との連携を図りながら、そこから出た新たなニーズに応えるべく、地域・利用者及びその家族・職員が幸せになれるような数年後を見据えた事業運営と支援活動を継続して行っていきます。	ＳＤＧｓのめざす「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現は、社会福祉法人がめざす「地域共生社会」づくりにつながるため、地域における推進すべき取り組みとしてきたが、具体的な内容を示せず、法人内外への周知ができなかった。	×

（４）生活環境・利用環境の向上

年間計画	取り組み	評価
新型コロナウィルス感染症をはじめとした感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルを整備するとともに、マニュアルが励行されるよう職員教育を徹底します。	法人内で新型コロナウィルス感染症の陽性者が出た場合にもマニュアルに従い、適切に対処できた。	○

（５）人材の定着に向けた取り組みの強化

年間計画	取り組み	評価
一般事業主行動計画の確実な実施のため、ワークライフバランス（仕事と生活の両立）に配慮した取り組み（勤務時間の適正化、有給休暇の計画的な取得等）、女性の活躍を推進します。（役職者に女性の積極的な登用・産休・育休の円滑な取得及び復帰）	超過勤務はわずかに減ったが、目標の10％減を達成できなかった。有給休暇は88％の取得で目標が達成できた。産休・育休の該当者は全員取得した。役職者への登用は本年度できなかった。	△

（６）人材の育成

年間計画	取り組み	評価
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行います。	研修計画を策定し、一人ひとりの職員に合った研修に参加させた。本人のキャリア形成のため資格取得の奨励、研修希望をとりながら、より実効性のある研修内容に努めた	○
主任・主任候補者等のリーダー層の育成に取り	人事考課研修において主任・副主任が目指すべ	△

組むと同時に目指すリーダー像を明確にします。リーダー層の教育を充実し、次世代の管理者、経営層の後継者の選抜、育成に努めます。	き職員像について、理解を深めた。講師の中小企業診断士に次世代リーダーの選抜についてアドバイスを受けた。	

（7）コンプライアンスの徹底

年間計画	取り組み	評価
職員に対する社会福祉関係法令、労務関連法令、虐待防止法等の適切な理解を促す場の提供に努め、社会的ルールの遵守の重要性を普及・啓発します。	福祉施設の職員としてのルールの徹底を各管理者に課してきたが、それぞれ温度差があり、職員一人ひとりの十分な理解には至らなかった。	△

（8）健全な財務規律の確立

年間計画	取り組み	評価
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、その事業の将来性、継続性を見通した経営管理を行うとともに、限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い経営管理を実現するよう努めます。	社会福祉法人の公益性を鑑み、収益性が見込まれない部分への参入も含め、職員から意見を求める取り組みを実施したが、実が伴わなかった。	△
会計責任者である管理者には財務管理能力の向上のための取り組みを行います。	支援の現場には積極的に指導力を発揮しているが、会計となると苦手意識が未だみられた。	△

2．運営事業

（1）第二種社会福祉事業

ア．生活介護事業所ぬくもりの家（定員40名）

イ．生活介護事業所ぬくもりワークス（定員60名）

ウ．生活介護事業所まるくてワークス（定員60名）

エ．共同生活援助事業所アットホーム（定員14名）

オ．多機能事業所ぬくもりの郷（定員20名）

（【生活介護】14名【放課後等デイサービス】６名）

共同生活援助事業所ぬくもりの郷（定員20名）

短期入所事業所ぬくもりの郷（定員６名）

カ．相談支援事業所　ぬくもり

キ．就労継続支援Ｂ型事業所安城市虹の家（定員20名）指定管理の受託

（2）公益事業

ア．地域生活支援事業

日中一時支援事業（ぬくもりの家・ぬくもりワークス・まるくてワークス・ぬくもりの郷）

３．役員会等の開催状況

（１）第１回理事会

令和３年６月１日(火）ぬくもりの郷

出席理事６名・監事２名

（２）第２回理事会

令和３年６月２２日(火）ぬくもりの郷

出席理事６名・監事２名

（３）第３回理事会

令和３年８月　書面表決

（４）第４回理事会

令和３年１２月１７日（金）ぬくもりの郷

出席理事５名・監事１名

（５）第５回理事会

令和４年１月　書面表決

（６）第６回理事会

令和４年３月２１日（月）ぬくもりの郷

出席理事６名・監事１名

（７）第１回評議員会

令和３年６月２２日(火）ぬくもりの郷

出席評議員７名・立会理事２名（理事長・常務理事）

（８）第２回評議員会

令和３年９月　書面表決

（９）第３回評議員会

令和４年１月１４日（金）ぬくもりの郷

出席評議員８名・立会理事２名（理事長・常務理事）

⑽ 監事監査

令和３年５月１８日（水）ぬくもりの郷

出席監事２名・立会理事１名（常務理事）

⑾ 評議員選任・解任委員会

令和３年６月１日（火）ぬくもりの郷

出席委員３名・立会理事１名(常務理事)

４．リスクマネジメントの状況（延べ件数）　　※（　）昨年度実績

	家	ワ	ま	ア	郷	相	虹	本	計
ヒヤリハット事例	29	8	7	2	3	0	13	1	63(139)
事　故　報　告	18	6	8	3	15	0	4	2	56(98)
苦　情　報　告	0	6	4	0	3	0	5	0	18(17)
虐待(疑い)通報事例	0	0	2	1	0	2	2	0	7(8)

５．第三者評価の受審状況

全事業所において、自己評価を行った。第三者評価にて要改善とされた事項を中心として改善に取り組んだ。

６．職員研修の実施状況

ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行った。

７．会報の発行

法人の会報を発刊し、施設の内容などの紹介を行い、地域住民の理解を深めるよう努めた。

（１）発行回数　年２回

（２）発行部数　1,100部

（３）配 布 先　保護者・手をつなぐ親の会会員・福祉関係施設・行政機関・ボランティア団体・北明治連合町内会・赤松町内会・池浦町内会・城南町内会・学校等

８．職員の在籍状況（育児休業中職員を含む）

（１）採用と退職状況　　単位：人

	R03年度当初	採用	退職	R04年度当初
常　勤	54	3	2	55
非常勤	84	16	11	89

（２）有給休暇取得状況

勤 続 年 数	１年未満	１年以上 ３年未満	３年以上 ５年未満	５年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	平均
取得率（%）	30.0	85.5	86.0	95.8	89.4	80.0	85.0	88.6
取得日数（日）	0.0	7.6	12.3	18.3	17.9	16.0	15.8	15.0

（令和２年度取得率83.8%、日数13.8日）

９．借入金の状況

（１）福祉医療機構からの借入状況（令和４年３月３１日現在）　　単位：円

借 入 目 的	借入年度	借入金額	令和３年度償還状況		借入残高
			元金	利息	
まるくてワークス施設整備	17年	30,000,000	1,500,000	94,500	6,000,000
ぬくもりの郷施設整備	24年	80,000,000	4,032,000	577,500	44,016,000
ぬくもりの郷Ⅲ施設整備	27年	30,000,000	2,016,000	135,450	16,968,000
計		140,000,000	7,548,000	807,450	66,984,000

（２）借入金の償還財源の状況　　単位：円

区　　分		金　額	内　　訳
元利償還金（令和３年度）		8,355,450	元金7,548,000 利息807,450
財源	自　己　資　金	6,050,450	本部会計
	補　　助　　金	2,305,000	愛知県（民間社会福祉施設運営費補助金）
令和４年度償還予定額		8,268,930	元金7,548,000 利息720,930

10．寄付金の状況

（１）事業活動による収支の部　　単位：円

	本	家	ワ	ま	郷	虹
家保護者会	2,535,000	53,778				
ワ保護者会	1,267,600					
ま保護者会	1,584,000			197,044		
郷保護者会	496,000					
企業・団体						
個　　人				33,000		
計	5,882,600	53,778	0	230,044	0	0

Ⅱ．ぬくもりの家

《総括》

コロナ禍においても健康増進と地域交流や社会参加のため可能な限り「外へ出る」ことに努めてきた。またウィズコロナの考えから緊急事態宣言中以外は感染対策をした上でボランティアや実習生を受け入れてきた。

年度を通して職員１名、利用者２名が新型コロナ陽性者となったが施設を感染のタイミングから閉鎖することはなかったのは幸いであった。利用者のワクチン接種については嘱託医の協力で３回とも施設内でスムースに行うことができた。

ご家族への満足度調査アンケートにおいて「事業計画の各項目に対して実施できているか」を回答していただいた。利用満足度については目標の90％以上を達成できた。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）権利擁護意識の向上と支援員のスキルアップ

年間計画	取り組み	評価
Ｗｅｂ学習「サポーターズカレッジ」を継続して視聴することで権利擁護意識を高め、維持します。	毎月の各課のミーティング時に必ず視聴した。	〇
「本人らしさ」「その人らしさ」とは何かを追求し、ストレングス（長所・強み）に着目した支援を行います。また、自らの支援を本人中心の視点で振り返ります。	会議や日々の会話の中でストレングスに着目した支援を実行している。またケース会議においては支援の見直しを行った。	〇
「意思決定支援」には未体験のことを体験する①「意思形成支援」、言葉以外で思いを表出できるよう工夫された②「意思表出支援」、またその③「思いを汲み取るスキル」が必要です。さらに汲み取った思いをサポートして実現させる④「意思実現支援」がゴールです。以上を心がけながら「意思決定支援」を実践します。	ランチのメニューや出かける先の場所や活動内容など可能な限り自己決定や自己選択の機会を提供した。また①②③④を心がけて支援にあたってきた。しかし特に③についてはまだまだ利用者本人の視点で振り返ると改善の余地がある。	△
個別支援を心がけますが、支援する側は「チーム」なので「チームで行う個別支援」であることを忘れないよう朝礼・終礼・ミーティングでの合意形成を大切にします。	ミーティングや朝礼終礼で意見交換、情報共有、合意形成ができていた。また課の垣根を越えて協力し合うことができた。	〇
法人内はもちろん法人外の他事業所とも交流し、情報や知識を深め良い支援につなげます。	コロナ禍ということもあり、職員によって交流の機会が十分であった者とそうでない者もいた。	△
支援員は常に権利擁護意識と支援スキルの向上に努めます。そのため支援中は以下の６つを実	改善の余地はあるが、①～⑥についてよくできていた。また「虐待の芽チェックリスト」を定	〇

践します。①担当課以外に積極的に入る②利用者さんとは一人の大人として接する③過度なスキンシップを避ける④ひとりひとり異なる適切な距離感でコミュニケーションを取る⑤笑顔で気持ちよく挨拶する⑥事故やヒヤリハットにつながる支援員どうしの私語は慎む。	期的に実施することによって権利擁護意識の向上につながっている。	

（2）地域とのかかわり

年間計画	取り組み	評価
積極的に外へ出て利用者さんを知っていただく機会とします。そのことが地域の福祉力アップにつながると考えます。また恵まれた地域の社会資源を活用します。	アンフォーレや地域の公園に積極的に出かけ地の利を活かした社会資源の活用ができた。	○
町内会、ボランティアネット北明治の会など地域とのネットワークを大切にします。	コロナ前ほど活発ではなかったができる範囲でボランティアを受け入れてきた。	△

（3）環境および健康増進

年間計画	取り組み	評価
看護師と支援員の連携・役割分担によりインフルエンザ等の感染者ゼロを目指します。	インフルエンザ感染はゼロであった。コロナ感染者も数名出たがまん延することはなかった。連携・役割分担において改善の余地あり。	△
消毒作業を毎日行い、清潔で安全な環境を整えます。	消毒作業を行っているが不十分な点が見つかった。	△
利用者さんに「わかりやすい伝え方」を心がけます。写真やイラストを使い、「見える化」に努め安心につなげます。	全員に対して「わかりやすい伝え方」ができているとはいえないが、試行錯誤しながら実施できた。	○
四季を感じる「ウォーキング」を活動の中心に据え、良質な睡眠や風邪予防に努めます。	積極的に歩くことが健康増進と情緒の安定につながっていることで、ご家族にも喜んでいただけた。	○

《生活介護事業》

１．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
	女性	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
	計	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
出席率（%）		85.6	83.2	85.7	85.6	82.3	84.0	84.1	86.2	86.1	82.8	80.1	83.0	84.1

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	1	新利用者歓迎式
5	25	ぬくもりチャレンジ運動会
6	17	避難訓練
	24	歯科検診
7	16	健康診断（半田市医師会健康管理センターによる）
8	3	新型コロナワクチン接種　１回目
	17	新型コロナワクチン接種　２回目
	31	ぬくもりフェスタ
9	30	避難訓練
10	8	日帰り旅行（明治村コース、鞍ヶ池・香嵐渓コース）
	13	えだ豆収穫交流
	14	歯科検診
	22	日帰り旅行（明治村コース、鞍ヶ池・香嵐渓コース）
	29	日帰り旅行（明治村コース、鞍ヶ池・香嵐渓コース）
11	4	インフルエンザ予防接種
	25	ぬくぬくふれあいコンサート
12	24	クリスマス会
1	11	新成人を祝う会
	28	新年会

2	3	豆まき			
3	17	防災訓練			
月活動		誕生日会	お持ち帰りランチ	嘱託医健診	山の幸染め
		体重測定	出張カット		

※個別面談はサービス等利用計画に合わせて誕生月を基準に６ヶ月ごとに実施

３．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	2	大学・専門学校	6	社　　協	0
北明治ネット	4	更生保護関係	0	民　生　委　員	0
Ｊ Ａ 青 年 部	15	高　　校　　生	7	中　　学　　生	0
音　楽　協　会	5			合　計	39

４．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中　　学　　生	0	大　　学　　生	112	学　校　教　諭	0
専 門 学 校 生	26	高　　校　　生	22	合　計	160

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的の事業。

令和３年度は地域の困難事例である１名の利用者が23回利用。

Ⅲ．ぬくもりワークス

《総括》

令和３年度は安城特別支援学校より新利用者１名が加わり、51名での生活介護事業であったが、12月末と３月末に２名の利用者がグループホームと併設している生活介護事業所を希望され利用契約を辞められ、年度末には49名となった。

昨年度は就職を希望している方１名が合同企業説明会に参加をしたり、障がい者就業・生活支援センターに登録をしたりと就職に向けた取り組みに力をいれた。また就職を前提とした現場実習も１名行い、ハローワークの紹介で２名の利用者が面接へのエントリーを行った。残念ながら就職へ結びつくことはできなかったが、企業様との関わり（関係）を持つことができた。また現場実習をさせていただいた企業から就職を前提としなければ実習として受けていただけることになった。

作業では新たに１社と取引ができた。またコロナ禍で中止となっていた福祉センターへ出向いての販売を再開することができ、利用者も一緒に参加をして社会との繋がりを感じることができた。また２月よりアンフォーレエントランスにて単独販売を週１回のペースで現在も行っている。

外食に行けない環境からテイクアウトやキッチンカー（スガキヤ・クレープ）に来ていただき、形を変えての実施もした。

愛知県からのＰＣＲスクリーニング検査を全支援者対象に２週間毎に行い、感染予防と支援者の安心に繋げたが、支援者１名と利用者１名の陽性者が判明したため合計５日間の施設閉鎖をした。

人材育成においてはオンライン研修にて非常勤職員も参加し、全職員が権利擁護・意志決定支援・虐待防止研修を視聴した。応用行動分析学の研修を安城市虹の家と共同で実施し、支援の専門性スキルを高めた。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）利用満足度の向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
利用者に寄り添い、意思決定を支援するとともに、ストレングスを活かし、常に権利擁護意識に努めます。	利用者の「やりたい」を大切に今まで取り組んでなかった作業にも取り組み、作業と余暇を選択してもらうなど意思決定に向けた取り組みを行った。	〇
個々のニーズに合わせて「働くことの愉しみ」と「工賃を得た喜び」を高められるような作業支援を心がけます。	資源化センターでの作業要望のある方に実習を行った。賞与支給日には欲しい物の確認を行い、工賃を得た喜びにつながるように促したが全ての利用者まではできていない。	△
利用者の立場に立って四季が体感できるような充実した余暇支援を心がけます。	季節に合わせて桜を見たり、海を見たりなどドライブと歩行を行った。余暇活動がカラオケ等限定的になり充実した四季を体感するまでには至らなかった。	△

（２）地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
恋塚まつりの開催や町内行事、福祉祭りなどに参加して地域との連携を図ります。	町内会とごみ拾い交流会を実施し、町内夏祭りには販売で出店した。恋塚まつり・福祉まつりはコロナ禍で開催中止となった。	△
民生委員やボランティア等を積極的に受け入れ、福祉に対する理解の促進を目指します。	実習生は事前に検温を行い、安全の確認を行った上で受け入れた。 福祉・介護の職場体験提供事業（愛知県社会福祉協議会）の受け入れの依頼があり、１名実施した。	△
行政や相談支援機関と連携して、地域福祉推進に協力します。	特別支援学校の実習では１名受け入れた。 安城市自立支援協議会のはたらくグループ（下部組織）に役員として職員が参加した。	○
利用者の高齢化に伴い、介護保険サービス等の連携を図ります。	１名の方が介護保険の認定で自立となったため密には連携を取っていない。	△

（３）人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
社会福祉士や介護福祉士等の実習生を受け入れ、新たな人材確保と育成に努めます。	社会福祉士１名の実習と高浜高校３名の介護福祉士の実習を行った。安城南中学校の職場体験15名と明祥中学校２名の受け入れも行っている。	○
必要に応じて支援・介護技術など内外の研修や勉強会に参加して専門性の強化を図ります。	常勤・非常勤職員共に権利擁護や意思決定支援についてＺＯＯＭやビデオ研修で実施した。歯磨き支援が充分に行えないため、歯科衛生士に講師を依頼し講習会を行った。	○
福祉サポートカレッジを活用して、スキルの向上に取り組みます。	福祉サポートカレッジを活用することがなかったが、ＺＯＯＭでの研修（ＶＴＲ）を視聴して行った。またＺＯＯＭ研修に非常勤職員も参加した。	△

（４）生活環境・利用環境の向上(安心・安全なサービス提供に対する基本姿勢)

年間計画	取り組み	評価
感染症予防・拡大防止のため、手洗い・手すり等の消毒・マスクの着用・対面にならない環境作りに努めます。	毎日３回消毒を行い、作業室においては同じ方向を向いて作業を行うように環境を整えた。マスクは利用者全員がつけることができるようになった。	○
利用者の咀嚼・嚥下能力に応じて食事形態を工	面談時に食事形態を確認し、必要に応じて刻み	○

夫します。	やカットを行った。	
災害時や感染症発生時などではサービスの提供を継続するための情報提供を行います。	ＰＣＲ検査等で陽性が判明した時にはすぐに市役所に報告するとともに安城市自立支援協議会へ発信して各事業所との共有を図った。	○
利用者にとって生活の場にふさわしい快適な環境となるよう、エレベータの活用や移動や食事を個々のペースで行うなど生活リズムを整えます。	エレベータは本人の意向があればエレベータを使用して移動を行い、歩行が不安な方には手押し車を用意した。食事は時間内ではあるが、好きな時間に食べるなど個々のペースで活動できるように配慮した。	○

《生活介護事業》

１．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408
	女性	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	201
	計	51	51	51	51	51	51	51	51	51	50	50	50	609
出席率（%）		93.7	84.9	92.0	90.4	84.3	92.1	93.3	93.0	84.8	90.5	75.1	77.7	87.7 (88.5%)

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	1	入所式
	13	保護者会総会
5	12	健康診断
	18	防災訓練
	22	保護者会勉強会
	28	赤松保育園とじゃがいも掘り交流会
	－	生活セミナー（講師　澤田巡査）（中止）
6	－	いちご狩り（中止）
7	1	歯科検診
	13	保護者会

	31	赤松町内夏祭り
8	11	納涼会
	―	保護者ボラ(七夕まつりペットボトル洗浄)(中止)
9	―	恋塚まつり(中止)
10	9	安城市福祉体育祭
	12	保護者会
	―	安城市福祉まつり(中止)
	―	名フィルコンサート（中止）
	―	ソフトボール大会（中止）
11	1	避難訓練
	17	日帰り旅行
	18	嘱託医検診・インフルエンザ予防接種
	24	日帰り旅行
	―	生活セミナー（講師　澤田巡査）（中止）
12	3	赤松町内環境保全活動
	24	クリスマス会
1	4	初詣
	11	成人式
	21	赤松町内公民館祭り作品出展
	―	生活セミナー（講師　澤田巡査）（中止）
2	21	避難訓練
	―	保護者会(中止)
3	8	臨時保護者会
	23	お楽しみ会
	―	ひな祭り会（中止）

月活動	グラウンドゴルフ	歩行	カラオケ	ツーリング
	映画	イラスト	体重測定	血圧測定
	外食（不定期）	嘱託医健診		

３．ボランティア受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	12	民 生 委 員	0	高　校　生	91
保　護　者	0	大　学　生		生　け　花	0
赤松町福祉委員	0	恋 塚 ま つ り	0	合　計	103(47)

４．実習生受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中 学 生 職 場	17	大　学　生	108	学 校 教 諭	0
特別支援学校	5	高　校　生	22	看護専門学校	20
慈恵福祉保育	15			合　計	187(91)

５．作業内容（作業別収入）　※（　）昨年度実績

取　引　先	売上高（円）	内　　容
農作物	90,940	農作物の販売
タクマ産業（有）	531,102	自動車部品（ウレタン）選別
菓子製造（パウンドケーキ）	712,239	菓子の製造・販売
自主製品	27,581	縫製品製造・販売
富士カーボン（株）	1,105,732	自動車部品の加工
MUコーポレーション	21,824	マット清掃等
安城電機	77,000	マスク封入作業
安城市（清掃事業所）	81,550	段ボールコンポスト製造・販売
安城市（清掃事業所）	2,973,000	ＥＭボカシの製造・配達
安城市（維持管理課）	10,000	リサイクル自転車の清掃
安城市（清掃事業所）	13,985,534	ペットボトル仕分け作業
名鉄百貨店	24,667	販促商品梱包作業
ナカムラ製菓	595,681	委託販売（せんべい）
真輝	101,700	DVDケースクリーニング
アルミ缶販売（安城貿易）	10,275	アルミ缶回収
ミカテック（株）	56,430	軽作業(新聞紙切断)
（株）アチーヴ	82,667	自動車部品加工

（株）杉本商会	324,772	販促商品（ゴミ袋）封入作業
（株）フォーユー商品	133,622	委託販売（マカデミアナッツボール）
日菱産業（株）	63,375	自動車部品加工
（株）神谷コンクリート	83,704	パッキンはめ
アンジョウハーツ（商工会議所）	125,928	キャップパネル梱包・商品梱包等
安城七夕まつり協賛会	0	ペットボトル洗浄・処理
（株）サンブロードケミカル	92,283	自動車部品拭きあげ作業
デンソー（株）高棚製作所	38,500	エコキャップパネル作成
（有）クズハラゴム	469,825	バリ取り作業
安城市指定ゴミ袋販売	275,380	安城市指定ゴミ袋の販売
その他	25,629	施設カレンダー･バザー用品･西三セルプ等
合　　計	22,120,940	（20,623,542円）

６．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　　9,848,457円　　（前年度　　9,885,212円）
１ヶ月平均工賃支給額　　16,225 円　　（前年度　　16,927円）
※１人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入

《日中一時支援事業》
１．事業内容
（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）　　※（　）昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	14	20	12	11	11	11	13	18	12	12	22	36	192 (103)

Ⅳ．まるくてワークス

《総括》

前年に続き、新型コロナウイルスの非常事態宣言やまん延防止等重点措置期間の影響で行事計画も予定通り実施できず、利用者の活動も大きく制限された一年だった。しかしながら、コロナ渦の中でも少しでも利用者が楽しめるように、感染防止を前提に「今出来る事は何か」を職員で検討し、安全対策を取って可能な限り行事を実施した。10月に愛知県社協から講師を招いて行ったフライングディスク講習会は、利用者にとても好評であった。１月に３日間、３月に８日間職員及び利用者が新型コロナウイルスに感染し施設閉所をした。施設閉所期間は安城市に在宅支援の手続きを行い、利用者宅に毎日電話して健康状態等の確認を行うことで給付費の減収対策を取ったが、まん延防止法発令期間は感染予防のため休む利用者も複数名いたため、平均出席率は前年に比べ４％減の結果となった。日中一時は、まん延防止等重点措置期間中も健康状態を確認した上で、希望される方は積極的に受け入れを行い前年比1.5倍となった。

また、台風や地震、半導体不足等の影響で下請け作業が減り、さらに福祉祭り等販売会も中止となり作業収入も減収、逆に電気代等経費が増額しているため、利用者工賃も毎年下がっており、対策と改善を検討している。

人材の定着については、４月に契約から常勤に転換した職員が自身の体調等の不調で休みがちとなり、再度非常勤職員に戻る等人材の定着と育成に課題が残る。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（1）利用者満足と支援の質の向上

年間計画	取り組み	評価
本人の意志決定を尊重した面談を行い社会生活力の向上と[いきがい]や[よろこび]を感じられる個別支援計画を作成し、支援にあたります。	面談時に本人の意向を聞くことに重きを置き、話しやすい環境作りに努めた。	〇
本人の希望するサークル活動や作業の選択をして、日中活動を活き活きと主体的に過ごせるよう支援します。	新しく書道サークル・創作サークルを取り入れ、選択の幅を広げる試みを実施した。	〇
利用者さん相互の関係性や個性に配慮しながら、できる限り快適で安全な環境を整えます。	プレイルームを有効活用し、作業の他にもレクリエーション・サークル活動を行い日中活動のレパートリーを広げることに努めた。また、個室を活用し、利用者の特性に配慮した支援に努めた。	〇
利用者満足度アンケート（年１回）を実施して、サービス向上に反映させていきます。	11月に利用者満足度アンケートを実施（回答率79%）。いただいた意見を出来る事（楽しい雰囲気づくりなど）から改善した。	△
健康状態の把握（検温、血圧測定、嘱託医検診、健康診断、感染症予防等）に努め、重度・高齢化対策として定期的に専門職（ＯＴ）の指	７月、８月、３月に嘱託医に依頼し施設で新型コロナウイルスワクチンを接種した。感染拡大防止に努めたが、施設閉鎖が２回あり今後も感	△

導の下、機能低下防止と保持に取り組みます。	染予防対策実施に努める。	

（２）地域との連携の推進と強化を図ります。

年間計画	取り組み	評価
大規模災害発生時における特定福祉避難所としての協力体制の確認や地域連携を活かした防災力の強化を図り、防災意識の高揚を図ります。	安城市の防災倉庫を設置。防災備品の管理を徹底した。 安城市障害福祉課と防災無線の確認を行った。	△
民生委員や地域の方等のボランティアを積極的に受け入れ、障害福祉の理解促進を図るとともに風通しのよい職場づくりを目指します。	コロナ禍のため地域交流の場への参加が出来なかったが、職員が池浦町内一斉清掃に参加し、近隣住民との交流を図った。民生委員等のボランティアは中止となった。	△
福祉祭りや公民館祭り、福祉事業所のイベント等の販売会に利用者さんと自主製品の販売や展示等で積極的に参加をして地域交流を図ります。	販売会のイベントは、ほぼ中止となったが、中部公民館まつりは作品展示（書道・絵画）での参加をした。	△
町内会や近隣の保育園等と行事をとおして連携を深めていきます。	コロナ禍で開催はあまりなかったが、開催されているときには「池浦町ほっとサロン」に参加した。	△

（３）人材定着と育成

年間計画	取り組み	評価
社会福祉士や介護福祉士等の実習生を受け入れ、新たな人材の確保と新しい人事考課基準に基づき、法人理念や基本方針の理解を深め「期待する職員像」に向けての育成に努めます。	社会福祉士実習２名、介護福祉士実習４名の実習を受け入れた。昨年実習生だった方が常勤職員として採用に結びついた。法人内研修に参加して法人理念や施設の強み等について理解を深めた。	△
オンライン職員研修サポーターズカレッジや福祉協会等の研修をとおして専門的知識の習得に努め、支援の向上を図ります。	２ヶ月に一度行っている課ミーティングで冒頭15分間サポーターズカレッジを視聴し、虐待防止や専門的知識の習得と支援の向上に努めた。	○
虐待防止法をはじめ権利擁護関係の研修に積極的に参加させ、理解と知識を習得します。	常勤職員だけでなく非常勤職員にも権利擁護セミナーを受講し、知識の習得をはかった。	△
労働災害（メンタルヘルスや腰痛防止等）対策と働き方改革を推進します。 有給取得率70%	計画的な有給取得を促した。トイレ介助の見直しを実施して腰痛防止の対策に努めた。 有給取得率81%	△
業務の効率化について職員で検討し、所定外労働の削減を目指します。 ＊前年比10%減	長期療養した職員もいたことから、業務の効率化はあまり進まなかった。 所定外労働は、前年度22.2%減	○

（4）安定した運営を目指します。

年間計画	取り組み	評価
特別支援学校等の実習生の受け入れや相談支援事業所と連携をして、新規利用者の増員を目指します。	安城特別支援学校から３年生２名・２年生１名の実習生を受け入れた。３年生については、新規利用者に結びつかなかった。	×
予算経理状況を把握し、適切な収益性の改善に努めます。利用者の出席率は88％を目指します。また、日中一時支援も積極的に受け入れて行きます。	１月と３月に新型コロナウイルス感染者が出たため施設閉鎖となった。不安感から施設利用を控える方が多く出勤率が前年に比べ４％下がった。日中一時の受入れは健康状態を確認した上で出来る限り受入れを行った。	△
遵守事項を徹底し、リスクマネジメント・コスト意識を持って業務にあたります。	事故報告書・ヒヤリハット報告書作成時に対応策を考え、すみやかな実行を心がけた。予算要求書を元にコスト意識を持ち、備品購入に努めた。	○

《生活介護事業》

１．年間利用実績　※（　）昨年度実績　　前年度比　約４％減

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
	女性	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
	計	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	624
出席率（%）		86.0	80.0	85.4	86.1	78.2	85.0	85.5	87.1	85.3	74.6	61.8	69.9	80.4 (84.5%)

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．保護者との連携

（１）３ヶ月ごとの保護者会開催　　７月、10月は新型コロナのため中止

勉強会及び施設見学会も新型コロナのため中止

（２）年２回の三者面談（モニタリング）をとおして利用者本位の支援の連携強化。

新型コロナを心配されている保護者には、電話対応で行った。

３．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	13	保護者会総会
5	10	健康診断（半田医師会）
	24	避難訓練
	28	お楽しみランチ（テイクアウト）
7	15	新型コロナワクチン接種（1回目）
	30	お楽しみランチ（テイクアウト）
8	5	新型コロナワクチン接種（2回目）
	27	納涼会（かき氷）
9	24	お楽しみランチ（テイクアウト）
	30	歯科検診（安城歯科医師会）
10	27	えだまめ収穫交流会（池浦町日本デンマーク村）
	29	フライングディスク体験会（愛知県社協主催）
11	4	インフルエンザ予防接種
	10	ほっとサロン（池浦町内会主催）
	19	日帰り旅行Ａ・Ｂ班（ありがとうの里他）
	26	
12	2	日帰り旅行Ｃ・Ｄ・Ｅ班（ありがとうの里他）
	7	
	14	
	8	ほっとサロン（池浦町内会主催）
	13	大豆収穫交流会（池浦町日本デンマーク村）
	24	クリスマス会
1	4	初詣（池浦天満宮）
	11	成人を祝う会／保護者会
	12	ほっとサロン（池浦町内会主催）
	25	避難訓練
2	3	豆まき
	25	新年会（ボウリング大会）
3	3	新型コロナワクチン接種（３回目）

	31	納会			
月活動		嘱託医健診	サークル活動	体重測定	血圧測定
		ほっとサロン	~~アピタ販売~~	~~市役所販売（年３回）~~	

4．ボランティア受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	0	中高大学生	0	専門学校生	0
池浦福祉委員	0	サークル講師	33	民　生　委　員	0
				合　計	33(13)

5．実習生受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績　132%増

区　分	計	区　分	計	区　分	計
専門学校生	38	大　学　生	47	特別支援学校	9
高　校　生	33	中　学　生	0	合　計	127(96)

6．授産事業

（1）作業指導のねらい

利用者個々の能力と適応性に応じた作業の技術習得と「はたらく」ことからの喜び・生きがいを実感できるよう支援した。

（2）工賃の支給額を作業状況、生活態度、対人関係を総合的に評価し決定した。

7．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高（円）	内　　容
自主製品販売	109,585	布草履・座椅子・ポチ袋・カレンダー
(株)稲徳煙火製造所	25,976	花火組み付け等
大見工業(株)	418,752	チップソー防錆液添付・箱詰め
増田煙火(株)	104,718	花火組み付け
都筑技研(株)	243,961	バイク部品組付け
山田製菓(株)	512,844	かりんとう・ドーナツ販売
安城市指定ゴミ袋販売	488,080	燃やせるゴミ袋等
(株)安城ポリエチレン	21,558	生花用ラッピング袋取りまとめ
(株)サカキバラコーポレーション	149,737	ゴム部品バリ取り
コーヒー豆	914,007	自家焙煎珈琲製造販売・豆チョコ

(株)ヤマノ	111,730	ナッツ販売
タクマ産業(有)	273,613	ダクトシール貼り・パッキン
杉本商会(株)	60,846	新聞店販促品(安城市指定ごみ袋詰め)
銀のさら	48,800	箸、醤油皿袋詰め
(株)アチーヴ	120,967	自動車部品パッキンはめ
その他	399,415	農作物･セルプ・土嚢袋・アルミ缶等
合　　計	4,004,589	

８．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　　1,436,280円　　(前年度　　1,770,542円)
１ヶ月平均工賃支給額　　2,489円　　(前年度　　3,273円)
※１人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入

《日中一時支援事業》
１．事業内容
（１）特別支援学校生や在宅又は就労等している障害者の平日の日中における活動の場を提供し、簡単な相談を受けながら情緒の安定と本人の居場所をつくるとともに家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）　　※（　）昨年度実績　159.2%増

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	22	20	22	20	16	19	22	18	16	14	12	6	207 (130)

Ⅴ．アットホーム

《総括》

ホームぬくもりの常勤スタッフの長期休暇により、緊急の支援体制を敷いてホーム支援を行なった。他事業所の応援をいただきつつ、利用者の生活を支えることができた。

２月、３月にかけて日中事業所で新型コロナ陽性者が発生したため、めろんぱんとこやまホームが一部の利用者を除いて利用を制限することがあった。サービスの質を可能な限り保ちつつ特定のスタッフで利用者支援についた。

コロナ禍においても日々の暮らしを淡々と支えるというミッションは変わらないため、感染予防対策をしっかりと取りながら日常生活のサポートをしてきた１年だった。

年末年始や緊急時なども、職員の協力体制により暮らしが維持できていることは、アットホームの強みである。

フルハウス跡地の売却が完了した。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（1）自分らしい暮らしの支援

年間計画	取り組み	評価
日頃から利用者様のストレングスに着目した支援をします。また、個別支援計画にも本人の持つ個性やストレングスを盛り込み、それを活かして自分らしい生活ができるよう支援します。	支援計画に基づき、本人ができることは可能な限り本人に行っていただいた。また、ホーム内で役割を持っていただき「役に立っている実感」得られるように支援を行った。ただ、全員が支援計画を意識して支援していたかは疑問が残る。	△
充実したオフタイムを大切に「自分の家」にいるようなホッとした気持ちになれるホームを目指します。	リビングや居室など、自発的に好きな時に好きな居場所で好きなことをするなど、各利用者が思い思いにリラックスして過ごすことができていた。	○
季節に応じた食事やイベントを通じて、豊かでぬくもりある生活ができる環境を提供します。	コロナ禍ではあったが、感染対策を徹底しながら誕生日会やクリスマス会などのイベントを行ない、少しでも雰囲気を保つことができた。 今後も感染予防に講じながら少しでも楽しみの機会を確保したい。	△
「やりたくない」の気持ちも大切にして無理な押しつけはしません。	全体で動くときに個別対応できないこともあったが、基本的には押しつけはほとんどなかった。ただ、業務時間都合で時間内での業務完結をもとめる傾向もあった。	△

（2）安心した暮らしと健康管理

年間計画	取り組み	評価
より質の高い個別支援計画によるサービス実践により満足度を高めます。	今年度は感染対策を講じて対面での個別面談も増えてきた。コロナ禍ということもあり、必ずしも計画通りに進められないこともあった。	△
サービス管理責任者とスタッフ間の報・連・相を徹底し情報が円滑に伝わるよう努めます。またその方法を探求していきます。	対面の打ち合わせや電話やラインでの報告・連絡・相談を行ってきた。また毎週フェイスタイムをＺｏｏｍで行い、情報共有できる機会を確保できた。	○
自己評価を通し、自らのサービスを見直す機会を設けて現在ある課題を見極め改善することでよりよいサービス提供に努めていきます。	自己評価を行ったが、昨年度と比べ悪くなった部分はなかったが、良くなった部分も目立ってなかったように感じる。	△
訪問看護やスタッフとの連携により、感染症予防と健康管理に努めます。	３回目のコロナワクチンやインフルエンザワクチン接種を全員済ますことができた。またスタッフについては定期的なＰＣＲ検査の実施により健康管理を徹底した。	○

（3）権利擁護意識の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者様には「〇〇さん」と呼ぶことを徹底します。	多くのスタッフは確実に「さん」付けで呼んでいるが、まだ一部の職員が「ちゃん」「くん」で呼ぶ場面があった。	△
ホームスタッフが一同に集っての全体ミーティングを行い、情報共有や親交を深めます。	全ホームがオンラインでつながり一堂に会することはなかったが、各ホームが毎月のミーティングを行ない情報共有できた。	△
インターネットを使った「サポーターズカレッジ」の講座視聴や研修参加などを通して利用者の権利擁護意識を高めスタッフ一人一人の育成を続けていきます。	毎月のミーティングの際に必ず視聴した。非常勤職員の意見を聞きながら興味があったり、支援に関連する講座を選択した。 補助金を活用して利用者支援に関する教材を購入してサポーターズカレッジと併せて勉強した。	○
安城市自立支援協議会と協働して、支援者を育成するための講座を開催します。またホームに関する啓発活動を通じて人材確保にも努めます。	自立支援協議会の下部組織である「くらしグループ」主催の世話人等確保事業の活用で、ホームの見学会を行い、実際にホームぬくもりに見学者が７名見学に来られた。	○

《共同生活援助事業》

１．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	女性	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	計	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．めろんぱん（定員５名）・ホームぬくもり（定員４名）・こやまホーム（定員５名）

Ⅵ. ぬくもりの郷

《総括》

ぬくもりの郷は、利用者の生活を総合的に支援することを目的とした事業所であり、本来別の事業である生活介護事業、共同生活援助事業、短期入所事業、日中一時支援事業が有機的に連携できる仕組みづくりに努めてきた。

令和３年度より生活介護事業所が放課後等デイサービスとの多機能事業所となった。職員同士の連携はもちろんのこと、障害児を指導することにより障害者福祉の学びを深める契機となり互いに相乗効果が出せるようにしてきた。

前年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、やむを得ず行事等を若しくは縮小することがあった。また、職員、利用者に陽性者が出たことから、生活介護事業、放課後等デイサービスは施設閉鎖を３回実施し、利用者及び利用者家族に迷惑をかける結果となったが、グループホームは閉鎖をせず衛生管理体制をとった上で継続できたことは、コロナ禍にあっての貴重な経験となった。

生活介護事業は、コロナ禍にあって在籍者数が毎月増減する中で例年との単純比較は困難であるが、出席率は79.6％の利用となり、前年比4.3％の減となった。

共同生活援助事業は、生活介護事業所が閉鎖する中で事業を継続した。コロナ禍の支援に課題はまだクリアできていない部分はみられるが、マニュアルにある基本的なことを実施していくことで一定の役割を果たせたと思われる。今後はさらなる有事に備え、スタッフの意識、様々な知識の共有を目指し、サービスの低下を招かないよう、支援体制の充実を図りたい。

日中一時、短期入所は、生活介護、共同生活援助の感染症対策に注力するため、緊急以外の利用を控えてもらうよう協力をお願いしたこともあり、大きな影響が出ることなく事業を行うことができた。

放課後等デイサービスは、サービスを開始して初年度ということもあり、はじめの頃は利用児が思うように集まらなかったが、相談支援事業所等へ積極的に働きかけた結果、契約者も増え、毎日の利用児の数も安定してきた。利用児にまた来たいとと思わせる魅力的なカリキュラム、質の高いサービスの提供を通じて、ファンを一人でも増やしていけるよう務めていきたい。

１．重点目標に対しての評価　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

（1）サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者の人権を尊重し、個人の尊厳を守ることの重要性について認識が深められるよう研修等を通じて、虐待防止法など社会的ルールの遵守の普及・啓発に努めます。	虐待防止について常勤職員を対象に定期的に啓蒙し、非常勤職員に対してはオンライン学習によって理解を深めた。	○
現在のサービスが的確に行われているか確認するため、福祉サービス自己評価の受審、利用者満足度調査を実施します。	自己評価を行い、要改善点はすみやかに改善するよう努めた。 利用者満足度調査は、前年度同様行い、ほぼ満足しているとの結果になった。	○
利用者の重度、高齢化の対応を的確にできるよう、支援力、介護力ともに質の高い人材の教育	高齢障害者への取り組みは研修等の派遣により実施したが、知識と実際のサービスの提供が伴	△

育成に取り組みます。	わなかった。	
生活介護、グループホームにおいて、家族の高齢化に伴い、必要な利用者の通院同行ができる体制をつくり、さらなる医療との連携を深めていきます。	生活介護、グループホームと嘱託医、訪問看護ステーションの連携をとり、必要な医療の提供の機会と通院同行を適切に行ってきた。	○

（2）地域との交流と連携

年間計画	取り組み	評価
地域交流広場の活用、作品展、イベントの開催等、地域に開かれた施設つくりに取り組みます。	コロナ禍のため例年同様にはいかない部分があったが、直接は無理でも間接的に地域とつながるよう取り組みを行った。	△
実習生・職場体験等の学校教育への協力、ボランティアの育成、地域住民との交流等を通じて、地域の福祉に対する理解を促進し、地域における福祉文化の醸成に取り組みます。	実習生等の受け入れは前年度同様行っており、その都度実習生に感想を聞き、知的障害者福祉への理解の深まりを感じることができた。	○
安城市の地域生活支援拠点等のとしての一翼を担うため、緊急時の受入体制を整えます。	コーディネーターとの連携をとりつつ、３件７日の利用があり一定の役割を果たした。	○

（3）生活環境・利用環境の向上

年間計画	取り組み	評価
新型コロナウィルス感染症をはじめとした感染症の予防・拡大防止対策を徹底し、まだまだ続くであろうコロナ禍の中でも利用者に楽しんでもらえるような活動を提案していきます。	コロナ禍の中外出がままならない中、キッチンカーなど利用者に喜んでもらえることを企画した。感染防止に配慮しつつ、日帰り旅行も実施した。	○

（4）人材の育成・確保・定着

年間計画	取り組み	評価
労務管理における責任体制を明確にし、適正な労使関係の構築に努めるとともに、一般事業主行動計画の確実な実施により職員一人ひとりが働きやすい職場環境づくりに努め、定着につなげていきます。有給休暇取得率は70％を目指します。	シフト制で不規則になりがちな勤務をなるべく職員に希望に添えるような勤務体制つくりに努めた。有給休暇の取得率は94.4％と余裕をもって目標に達した。	○
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置づけるとともに、一人ひとりの職員の成長段階に応じた仕事量の配分とそこで必要となる教育、研修の実施を行います。喫緊の課題の重度高齢化に備えるため、職員の医療知	支援のみならず介護技術の向上を図るよう取り組んできたが、より計画的に行う必要があった。コロナ禍で対面研修が難しい中、その代替としてオンライン学習を進めたが、積極的な学習はみられず、計画どおり進まなかった。	△

識の向上に特化した取り組みを実施します。		

（5）安定した財務基盤の構築

年間計画	取り組み	評価
財務諸表等に基づく経営分析等により、稼働率、人件費率など事業の運営状態を適切に把握し、適切な収益性の改善に繋げます。生活介護事業の稼働率は90％を目指します。グループホームは、現員を定員の100％にします。	利用者満足度を高めつつ、稼働率を増やせるよう取り組んだが、年度途中の1名の退所とコロナ禍の影響を受け稼働率は79.6％となり、目標に達しなかった。グループホームは定員の100％を達成した。	△
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、現在の報酬体系の理解、利用者の支援区分の把握、介護保険制度との連携を通じて、適切な収益性の確保に向け、その事業の将来性、継続性を見通した計画的かつ効率的な事業運営を行います。	現在の報酬体系で加算のとれるものは積極的に取り組みを行い、計画的な運営を目指す工夫をしたつもりだが、職員一人ひとりへ浸透するまで至らなかった。	△
限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い運営管理を実現するため、職員全体のコスト意識を醸成するための取り組みを行います。	事業計画書の作成を通じて、予算管理の重要性を理解できるようにしたが、職員全体には周知が足らなかった。	△

《生活介護事業》

1．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	10	11	9	9	9	9	9	9	9	9	10	9	112
	女性	7	7	7	7	6	7	6	6	7	7	9	8	84
	計	17	18	16	16	15	16	15	15	16	16	19	17	196
出席率（%）		78.8	76.5	84.9	83.8	83.9	82.1	81.3	84.5	74.7	77.8	71.1	76.3	79.6 (83.9%)

※1．在籍者数は初日在籍数

※2．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事

月	日	施　設　行　事			
7	15	健康診断			
	30	避難訓練			
8	27	夏まつり			
10	28	歯科検診			
	29	ハロウィン			
11	8	インフルエンザ予防接種			
	26	日帰り旅行			
12	3	避難訓練			
	10	ボッチャ大会			
	24	クリスマス会			
1	21	新年会			
3	29	避難訓練			
月活動		誕生日外出	わくわくランチ	チャレンジスポーツ	アート書道
		音楽療法	リラクゼーション	個別活動	機能訓練
		嘱託医検診			

３．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	2	大学・専門学校	2	サークル講師	0
民　生　委　員	0	高　　校　　生	1	小　　学　　生	0
				合　計	5(36)

４．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
社会福祉士実習	14	教員介護体験実習	30	福祉科高校生	22
看護学生	16			合　計	82(92)

《共同生活援助事業》

１．事業内容

（１）利用者が自立を目指し、地域において共同生活を営むことができるように個別支援計画を作成し、それに基づき世話人等より生活する上で苦手な部分（食事や健康管理等）の支援を受け、安心して生活できるよう努めた。

（２）地域とのつながりを大切にするため町内会に加入し、町内一斉清掃、防災訓練等の地域が開催する行事にコロナ禍のため可能な限り参加するなど地域住民と理解を深めるよう努めた。

２．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240 (238)

《短期入所事業》

１．事業内容

（１）居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者に対し、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて必要な支援を行った。
主には「家族の入院」「家族の不幸」などの緊急時対応と「将来に向けて宿泊訓練がしたい」という希望、さらには「家族の介護負担の軽減」のニーズがあり、なるべくニーズに応えるよう努めた。

（２）グループホームとの併設型であるため、グループホーム利用者の生活の安定を優先し、受け入れも安全面を十分に配慮するように努めた。

２．利用実績（延べ人）　※（　）昨年度実績

事業所名	家	ワ	ま	郷	虹	他	計
利用者数	60	87	44	11	1	1	204 (164)

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．利用実績（延べ人）　※（　）昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	130	151	135	157	151	146	176	148	165	159	99	115	1,732 (1,453)

《放課後等デイサービスぬくっこ》

１．事業内容

（１）13歳から18歳を対象とし、学校終了後及び、祝日・長期休暇に利用してもらい、日常生活における基本的動作や知識技能の習得とともに、集団生活に適応することができるよう、利用児童に合わせた支援を行った。

（２）体力向上を目的とし、歩行や外遊びなど身体を動かす時間を設けた。

（３）学校卒業後のライフステージを見据えた課題の設定や、法人内の成人施設への体験利用の機会を提供した。

（４）さまざまな経験を得られるよう、特に長期休暇中にイベント（水族館や動物園へのお出かけや、工場見学・バーベキューなど）を企画した。

２．利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	17	31	74	87	90	58	77	88	109	108	72	92	903

Ⅷ. 相談支援事業所　ぬくもり

《総括》

令和３年度は、相談支援専門員の３人常勤化の体制となり、多視点での専門的な相談支援を行うことができる体制に厚みが増した。利用契約者数が昨年度と比較して減少したが、一人ひとりの利用者の都合に合わせた支援調整を行うことができ、より良い環境で家族とも向き合う時間をつくることができた。

秋から初冬にかけて新型コロナ流行が落ち着いていた時期には、家庭や事業所、各関係機関等への訪問等、顔を合わせたコミュニケーション、利用者のニーズに合わせた見学や体験利用、個別支援会議が再開できた。令和４年１月以降、再びコロナが流行し多人数で集まることが困難となり、電話等での計画相談支援を行わざるを得ない状況となった。

研修会や自立支援協議会の各部会等の開催は、オンライン形式が浸透し、対面形式とオンラインが柔軟に活用され中止や延期の選択肢が大幅に減少した。相談支援を行う上で重要である地域の他職種との連携において、地域包括やケアマネージャーとの合同研修会も開催され、画面越しであるが協働へのつながりを深めることができた。

令和３年度の重点目標を達成するための取り組みの一つとして、「本人中心の支援」をベースとして、相談ぬくもり主催の研修会を３部構成で企画・開催した。開催にあたり、法人内の支援者多数の参加があり、同じ法人に属していても法人理念のもとに事業所ごとの特色を活かした事業計画の違いや強みや課題の抽出、グループワークによる多視点での意見交換の機会となった。継続した研修企画の要望も聞かれた。

相談支援の質の向上に向けて、社会状況に柔軟に対応できる心と視野の広さ、相談支援事業所内でモニタリングの精度が高まるよう、研修参加やミーティング等を通した学びを継続し、地域に発信していくことが求められ、また、事業所運営における適正化に向け、利用者に選ばれる相談支援事業所となっていくために「ぬくもりのある相談支援」を具現化し、専門性やスキルの向上に努めていく必要がある。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）「意思決定支援」の浸透を主導する

年間計画	取り組み	評価
日常の基本相談支援の浸透とサービス提供事業所とのアセスメント共有を行い、家族・支援者の本人理解を深めます。 利用者の生活歴、家庭風土を理解し、当事者の価値観や自己決定を尊重した支援を行い体験の積み重ねによる、ガイドラインに基づいた「意思決定支援」に努めます。	今まで活用しているアセスメントシートを改善する為に、基幹相談支援の助言、他事業所のシートを入手し、修正に着手した。また、意思決定支援のガイドラインを共有し「本人中心」の話し合い、意思決定に向けた見立てをコーディネートした。	△

（２）利用者の生活の質の向上と関係機関との「連携」

年間計画	取り組み	評価
「サービス担当者会議」で確認された、利用者の希望する生活の実現と体験を通して変わりゆく価値観に寄り添い、本人を中心とした支援チ	顔を合わせての担当者会議の開催が困難な時期が多かったが、電話等にて個別に現状を聴きとり、客観的な視点でモニタリングを行い、計画	△

ームがスムーズに役割を果たすことができるよう総合的かつ効率的に調整を行います。当事業所だけでは行き詰る困難なケースについては、基幹相談支援センターや地域の相談支援事業所、行政、医療、福祉等の機関と連携し、事態の改善を図ります。また、自立支援協議会の担当者会や愛知県相談支援専門員協会等の研修会に積極的に参加をし、地域課題の情報収集と相談支援専門員としての質の向上に取り組みます。	相談支援を行った。 自立支援協議会のそうだんグループ、基幹相談支援、一般相談支援事業所、地域生活拠点等関係者と地域の課題抽出や他職種との連携につながる機会に参加した。権利擁護や虐待防止の研修に参加し、社会に根強く残る古い考え方や固定観念からの脱却に向けて根拠となる経過の知識、取り組み実践を多く学んだ。	

（3）地域課題の情報収集と社会資源の改善・開発の提案

年間計画	取り組み	評価
「個別支援会議」や「サービス担当者会議」等において表出された個別のニーズから、社会資源の改善や開発につながるように、自立支援協議会の仕組みや福祉サービス事業所等との連携を図るとともに法人（ぬくもり福祉会）で寄与できることも模索しながら提案や共有を行い、地域課題の解決に向けて発信・協働します。	自立支援協議会そうだんグループへの参加を軸として、共生のまち部会の報告、例外的支給や地域体制強化共同支援加算の事例から地域課題の共有を行った。 相談ぬくもり主催の研修会を開催し、法人内での支援工夫や範囲拡大に向けて「本人中心」をベースに話し合ったが、改善までは至っていない。	△

（4）専門スキルの研鑽とモニタリング精度の向上

年間計画	取り組み	評価
自ら作成した計画相談支援の自己評価をおこなうことで達成度・満足度の向上と計画相談の精度と質の向上に努めます。 相談支援専門員間で利用者の基本情報理解の範囲を広げ、モニタリング機会等を通して複数の視点で生活状況、支援経過を確認できるように努め、利用者の希望する支援が適切に行われ、時々に変　わりゆくニーズの具現化を行います。	重点目標の（１）に取り組む中で「意思決定支援」ガイドラインをベースに、計画相談支援の「本人の生活希望」欄を具体化するための、モニタリング精度向上に取り組んだ。 月に１回のミーティング時に報告や相談機会をつくり、多視点でのケース見立てを行ったことで、担当相談員以外でもイメージができるように取り組んだ。課題としては基本ベースが整いつつあるところで、定着に向けて引き続き意図的に実行する必要がある。	△

２．契約者数（人）

令和３年度利用契約者（令和２年度契約者数）

・ぬくもりの家	26名（27名）	・ぬくもりワークス	46名（46名）
・まるくてワークス	41名（44名）	・ぬくもりの郷	13名（13名）
・アットホーム	0名（１名）	・安城市虹の家	10名（10名）
・法人外利用者	82名（83名）		

合計　218名（224名）

（１）変動理由

ア．法人内利用者

・介護保険移行３名

・他相談支援事業所への契約変更１名

・死去１名

・地域生活支援事業のみ支給決定１名

・新規契約１名

イ．法人外利用者

・他相談支援事業所への契約変更１名

３．事業報告

（１）研修参加

・ぬくもりワークス

精神・発達障害者しごとサポーター（令和３年７月２日）

・安城市虹の家

ＡＢＡを考えよう「応用行動分析学」（令和３年７月24日）

・愛知県知的障害者福祉協会

虐待防止体制整備講座（令和３年８月25日）

・愛知県相談支援従事者研修

意思決定支援（令和３年９月26日）

・愛知県知的障害者福祉協会

虐待防止及び相談支援部会意見交換会（令和３年９月24日）

（２）自立支援協議会　そうだんグループ

４月　新型コロナウイルスにより中止

５月　例外的支給、地区社協との連携、子ども相談事業所会議など（役員で開催）

６月　例外的支給、他職種との連携、コロナ対応についてなど

７月　共生のまち部会の報告、ケアマネとの連携、コロナ対応など

８月　ケアマネとの連携、入浴問題について、例外的支給など

９月　他職種との連携、入浴問題についてなど

10月　新規日中支援型共同生活援助事業所、他職種との連携など

11月　地域体制強化共同支援加算、居宅介護支援事業所との連携など

12月　地域体制共同体制支援加算、例外的支給、地域包括との連携など

１月　共生のまち部会報告、例外的支給など

２月　例外的支給、次年度の課題と取り組みなど

３月　例外的支給、共生のまち部会の報告、児童相談支援ミーティング報告など

（３）そうだんグループ　勉強会

11月12日（金）　ケアマネとの研修会

「事例検討、報告」

１月18日（火）　包括交流会

（４）相談ぬくもり主催研修会

「本人中心の支援」

11月10日（水）　法人事業所の強みと課題（法人内全事業所参加）

12月15日（水）　本人中心につながる事業所の強み（法人内全事業所参加）

２月24日（木）　事業所の強みを活用した事業計画（まるくてワークス）

Ⅶ. 安城市虹の家

《総括》

令和３年度は利用者20名でのスタートであったが、年度途中に２名の利用者さんが加わり12月に1名が退所され、現員21名となった。

できる限りの新型コロナウイルス感染予防対策を講じていたが、５月に利用者の陽性が判明し６日間の施設閉鎖をすることとなり出勤率も若干ではあるが下がった。しかしながら、作業収入においては新規作業導入やクッキー売上微増で、収入増となり目標工賃もクリアすることができた。

安城市の指定管理者外部評価を６月に受審し、総括評価では「利用者満足の高い施設運営が実施できている」「障害のある人のケンサチに貢献できている」「今後もこれまで以上に地域とのつながりを深め、障害者が地域で暮らせることの実現に向け進めて欲しい」と高評価をいただいた。

利用者には定期的に外部から講師を呼び「就労セミナー」「健康セミナー」を行い、働くことへの意識を高めるとともに、職員にはぬくもりワークスと合同で「てんかん研修・安城更生病院久保田先生」と「ABA応用行動分析研修・コロニー小林先生」のオンラインズーム研修会を開催し、専門性スキルの向上と意識を高めることができた。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）利用に対するサービスの向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
利用者及び家族とのコミュニケーションを深めます。母親だけでなく父親や兄妹との関係構築に向けた取り組みを検討していきます。	自治会運営のサポートを行い、行事や働くルール等見直しのサポートをした。必要に応じて臨時で個別面談を実施したり意向調査を行い改善点を明確にした。また、必要な方には父母だけでなく兄妹への面談参加などの体制作りを行った。	〇
サービス満足度調査（年１回）を実施し、さらなる魅力ある活動提供に務め利用率の拡大につなげます。また安定した施設環境を提供できるよう、新型コロナウイルスへの感染防止に努め（手洗い・手指消毒・定期検温・換気・三密の回避等）安心して利用できる環境づくに努めます。 ※目標出勤率80%	サービス満足度調査を実施し、要望などを次年度の計画に盛り込んで活動報告会（保護者会）にて報告を行った。コロナ禍における対応としては、作業環境を２箇所にする事で密を避ける体制の確保と、手洗い、手指消毒、定期検温、換気など実施した。 出席率：82%	〇
就職するために必要なスキル・マナーの向上に努め「働く」ことへの意識を高め、利用者一人一人が働くことへの多様な希望を実現するために様々なアプローチを行い、チャレンジする意欲を高めます。	就労移行事業所から「模擬面接会」と障害者就業センターから「働くとは！（仕事ってこんなにある）」　のセミナーを実施した。また新規作業の導入時には、作業内容の動画を用いて支援を行い、作業意欲とチャレンジ意欲を高めた。	〇

作業種目の見直し、施設外作業を含め新規作業の検討を行い、作業選択の幅を広げるとともに工賃向上を目指します。 ※目標月額平均工賃12,000円	新規作業を３種類導入し、作業の選択肢を増やしたが、まだまだ全員とまではいかない。作業定着のために作業手順書を視覚的にサポートする事で従事する作業が増えた方もみえた。	△
利用者一人一人の声に耳を傾け、社会通念や既存の制度から障害を捉えるのではなく、常に本人に寄り添って「想い」を捉え、主体性を引き出します。	相談室や事務室等、話の聞ける環境に移動し臨時面談を実施した。幻聴が聞こえるなど様々な相談にその都度話を聴きながら、本人の思いに寄り添うような支援を心がけ不安軽減につながるよう意識した。コロナ禍もあり計画していた「傾聴ボランティア」の導入は見送った。	△

（２）地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
福祉祭り等に利用者と参加し地域との連携を深めます。	コロナ禍で販売機会が減少したが、新規の販売先（お寺）や市役所食堂での販売も少しずつ行いながら、法人内事業所での販売会もやり、接客対応の場面を設けるよう意識して行った。	△
地元町内会との関係を深め、福祉に対する理解の促進を目指し開かれた施設を目指します。	城南町内会の防災訓練に参加し消火訓練等を地域の方と一緒に行った。町内会にある「井戸水」くみ上げ体験を行った。また福祉委員の方から立地から考えられる課題を抽出し「災害時のトイレの対策」について学んだ。	○
行政と連携して、地域福祉推進や災害時における安全・安心な生活確保に協力します。	コロナ禍における感染対応措置をとりながら安城市と毎月定例会議を実施し、業務報告や設備改善要求等の中で玄関自動ドアの改修をしてもらった。	△

（３）人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
外部研修。施設見学の強化　※障害特性に特化した施設への見学、または勉強会を実施し専門性のスキルを強化します。	ぬくもりワークスと合同で全職員が「てんかん研修・更生病院久保田先生」と「ＡＢＡ応用行動分析研修・コロニー小林先生」をオンラインズームにて研修会を行い、専門性スキルを高めた。	○
条例等関係法令を遵守し、権利擁護意識の向上に努めます。	権利擁護・虐待防止法の研修参加とサポカレを通して勉強会を行い、意識を高めた。また毎日５分ミーティングを実施し情報共有を図った。	△
ハラスメントの防止策、対策及び労働災害防止	職員配置を調整する事で有給取得できるように	△

策（メンタルヘルス等）を講じます。また、働き方改革を推進し、有給休暇取得率70％を目指します。	配慮した。クッキー製造など一部の職員しか製造に携われない点を今後は解決していく課題が明確となった。有給取得率もクリアできた。	

（4）組織運営体制の強化（マネジメントにおける基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
職員参加の下、提供するサービスについて定期的かつ継続的に自己点検（自己評価）を行うとともに見直しや改善に取り組みコスト意識を高めます。（ＰＤＣＡの実践）	満足度調査結果から活動の見直し等を行った。工賃アップのために新規作業の導入などを検討した。作業製品の保管場所の確保が難しい点などもあり思った以上に改善に繋がらない点もあった。第三者評価自己評価を実施し自己評価からの課題を明確にしたが、全職員の共通理解と言う点において改善対策の徹底が充分ではなかった。	△

《就労継続支援Ｂ型事業》

１．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	116
	女性	10	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	12	137
	計	20	21	21	21	21	21	22	22	21	21	21	21	253
出席率（%）		82.7	80.4	84.2	79.9	73.7	79.2	82.5	80.6	82.6	75.2	69.8	74.5	78.8

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	2	昭林公園お花見
	21	外食の日
	30	活動報告会
7	15	健康診断
9	16	歯科健診
10	2	健康セミナー
	6	周辺清掃

11	2	消火訓練
	23	外食の日
12	28	クリスマス会
1	11	成人式
	14	就労セミナー
2	8	避難訓練
3	18	就労セミナー
	29	通報訓練

3．ボランティア受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	15			合　計	15(9)

4．実習生受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中　学　生	0	特別支援学校	0	合　計	0(0)

5．作業内容（作業別収入）　※（　）昨年度実績

取　引　先	売上高(円)	内　　容
クッキー製造（自主製品）	909,960	クッキー・チュイール 製造・販売
あんステップ	1,046,540	トイレ・会議室・廊下の掃除
杉本商会	588,928	ゴミ袋封入作業
富士カーボン	227,134	カーボンブラシ箱詰め作業
アルミ缶	24,726	アルミ缶潰し作業
アチーヴ	1,335,911	自動車部品組み立て
その他	87,342	
合　計	4,220,541	(3,681,088)

6．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　　3,643,381円　　(前年度　3,144,470円)
１ヶ月平均工賃支給額　　14,401円　　(前年度　14,038円)
※１人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入